

琉球大学学術リポジトリ

Ryudai News Letter `20(Vol.26)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 琉球大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002020361

News Letter

琉球大学広報誌

2020 April Vol.26



禁止
出

377.3

SO

26

資 雜誌

琉球大学附属図書館



0020228019519



琉球大学
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

Island wisdom, for the world, for the future.

TEL.098-895-8175 kohokoho@acs.u-ryukyu.ac.jp

[目次]

●注目！琉大生 02

理工学研究科 機械システム工学専攻
博士前期課程 1年次 北島 栄司さん

●開学70周年記念特集 03

琉球大学の歴史
開学70周年記念事業

●首里城再興にむけて 07

琉球大学ができること
緊急学術シンポジウムを開催

●授業紹介 09

小島肇 地域連携推進機構 特命准教授

●ニューズトピックス 11

●基金だより 13

News Letter

琉球大学広報誌

2020 April Vol.26



琉球大学 <http://www.u-ryukyuu.ac.jp/>
University of the Ryukyus

Island wisdom, for the world, for the future.

〒903-0213 沖縄県中頭郡読谷町字千原1番地 TEL:098-895-8173 kokokaho@accs.u-ryukyuu.ac.jp

琉球大学の歴史 (3ページより特集ページ)
沖縄家政学研究会における作品発表会 (1956年6月30日)



注目!琉大生



北島 栄司さん

PROFILE

理工学研究科 機械システム工学専攻 博士前期課程1年次
愛知県 出身、琉球大学工学部 卒業

昨年8月の全日本学生ラート競技選手権大会（男子跳躍）で2位となった北島さん。限られた練習時間と環境の中で快挙を遂げた彼専属の名コーチは、なんとAI（人工知能）です。

琉球大学にラートの指導者はいますが、北島さんのアルバイトなどの関係から直接指導をもらえる機会は少なかったそうです。体操部員やOBの助けを借りながらも、アスリート本人が感覚を頼りに試行錯誤するしかない状況でした。そんな中、PoseNetと呼ばれる動画に写った人間の姿勢推定を行うAIを用いて自身の演技のクセを発見し、技の精度向上を図ったことが現状を打開するきっかけとなりました。

北島さんが大学院で学んでいるのは、まさにデータサイエンスの分野です。所属する研究室の指導教員である宮田龍太助教と共同研究者である佐藤尚准教授（沖縄高専・メディア情報工学科）に指導を受け、自身の研究をラートの練習に応用しました。

宮田先生は北島さんの意欲的なところを評価しています。まだ彼の指導教員ではなかった学部生時代から自主的にゼミに参加していたからだそうです。また、アスリート本人がデータ解析を行うことは、全国でも滅多にない事例だと話してくれました。

さて、ラートインカレで2位となった後も、更に改良を重ねて取り組んだ結果、今年1月に開催された全日本ラート競技選手権大会（男子跳躍）で8位入賞。これはインカレ2位よりも凄いことだと言います。このままいけば、来年は優勝間違いなし？



琉球大学の歴史

開学前史

第2次世界大戦によって灰燼に帰した沖縄では、沖縄の復興を教育の振興に託す人々、向学の志に燃える高等学校の生徒、さらにはハワイの沖縄県人会、東京の沖縄人連盟等から大学設立の請願運動が展開され、全琉的な世論となり、遂に当時の米軍政府が1948年12月に、首里城跡に大学を設立することを決定した。大戦後の混乱した沖縄での大学開学の道のりは極めて困難であった。



首里城周辺の水玉模様のすさまじい着弾痕 1945年6月18日



文教学校と外国語学校のテント校舎 1946年
(仲里マサエ氏蔵 那覇市歴史博物館提供 『大琉球写真帖』より)

1946年(昭和21年)

沖縄県具志川村に前身ともいえる沖縄文教学校が開設(のちに沖縄外国語学校が分離独立)。

山城篤男らが大学設立期成会を結成、設立運動を開始。軍政府文教部長スチュワート少佐に大学設置について要請。

1947年(昭和22年)

『沖縄の救済は先づ教育より』のスローガンのもと、ハワイの県系人が結成する「ハワイ沖縄救済更生会」が大学設立構想を公表。

スチュワート少佐からジュニア・カレッジ(2年制)設立構想が山城篤男に伝えられる。

高校生、文教学校、外国語学校在学生らによる設置促進運動、募金運動が始まる。

1948年(昭和23年)

12月、連合軍最高司令部の琉球局長ジョン・H・ウェッカリング准将が米国琉球軍政本部アーサー・E・ミード教育部長、沖縄民政府文教部長山城篤男と共に首里城跡等を視察し、首里城跡に4年制大学を設立することになった。



本館工事の様子 1949年

琉球大学の開学

1950年(昭和25年)

5月22日、英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部及び応用学芸学部の6学部、1・2年次あわせて562人の学生、44人の職員で開学し、同日、第1回入学式を挙行。

11月4日、志喜屋孝信が知事退任に伴い琉球大学の初代学長に就任。

1951年(昭和26年)

2月12日、開学記念式典(琉球大学贈渡ならびに学長任命式)を挙行。また同日講堂で第1回大学祭を開催。

4月1日、工業試験場が民政府から琉球大学に移管され、琉球大学那覇工業指導所(那覇エクステンションセンター)と改称し、工業技術員養成課程(2年)を設置。

9月25日、米国教育評議会並びに陸軍省の教育計画により、本学にミシガン州立大学教授団「ミシガン・ミッション」が派遣され、新形式を執り行う。以降、1968年6月まで本学の教育行政及び研究活動等への助言・協力を行う。

1952年(昭和27年)

5月5日、琉球大学大島分校教育学部短期(2年)課程を設置。(大島エクステンションセンター)

1953年(昭和28年)

3月20日、琉球大学第1回卒業式並びに修了式を挙行(卒業生26人、修了生74人)。

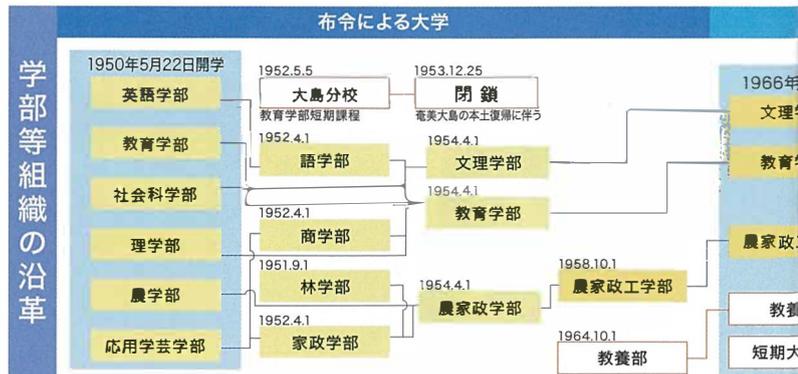
4月24日、文部省の援助により本土諸大学からの講師招聘を開始。

1955年(昭和30年)

10月1日、琉球大学那覇エクステンションセンターを吸収して、農家政学部により普及事業が開始。以降、国立移行前の1972年3月までの17年間、農業の改良と農村生活の改善を目的に運営された。



開学まもない頃の本学の全景 1950年4月





開学記念式典であいさつの
辞をのべる志喜屋学長
1951年2月12日



初期のミシガン州立大学
派遣教授団
1952年9月



創立当初の理事会の様子 1950年代初期



琉大農家便り
(1955年12月創刊、
写真は1964年5月号)



第1回卒業式 1953年3月

琉球政府立大学へ

1966年(昭和41年)

7月1日、琉球大学設置法及び琉球大学管理法により、本学は琉球政府立大学となり、管理機関として琉球大学委員会を設置。
勤労学生を対象とした短期大学部(夜間・3年課程)を併設

1970年(昭和45年)

9月、保健学部校舎が与儀キャンパスにて完成。



与儀キャンパス 1973年8月

国立大学へ

1972年(昭和47年)

5月15日、沖縄の本土復帰により、琉球大学及び同短期大学部は、国に移管され国立大学となった。
国立移行とともに琉球大学委員会が廃止され、職員の任命権が文部大臣に所属することになった。

キャンパスの移転

1977年(昭和52年)

5月11日、農学部附属農場の千原団地への移転により移転開始。

1979年(昭和54年)

2月14日、ミシガン州立大学と学生交流協定を締結(初の大学間交流協定)。

1980年(昭和55年)

5月22日、開学30周年記念式典を挙げる。この時に学章(芭蕉の葉と羽根ペンを組み合わせたもの)を正式に制定。

1981年(昭和56年)

4月1日、教育学部附属小学校を設置(1982年4月1日小学生受入れ)。

1984年(昭和59年)

4月11日、教育学部附属中学校を設置(1985年4月1日中学生受入れ)。
8月2日、医学部附属病院の上原団地への移転をもって移転事業を完了。

1998年(平成10年)

11月、公式の琉球大学ホームページを開設。

2000年(平成12年)

7月7日、第1回太平洋・学長サミット会議を開催。



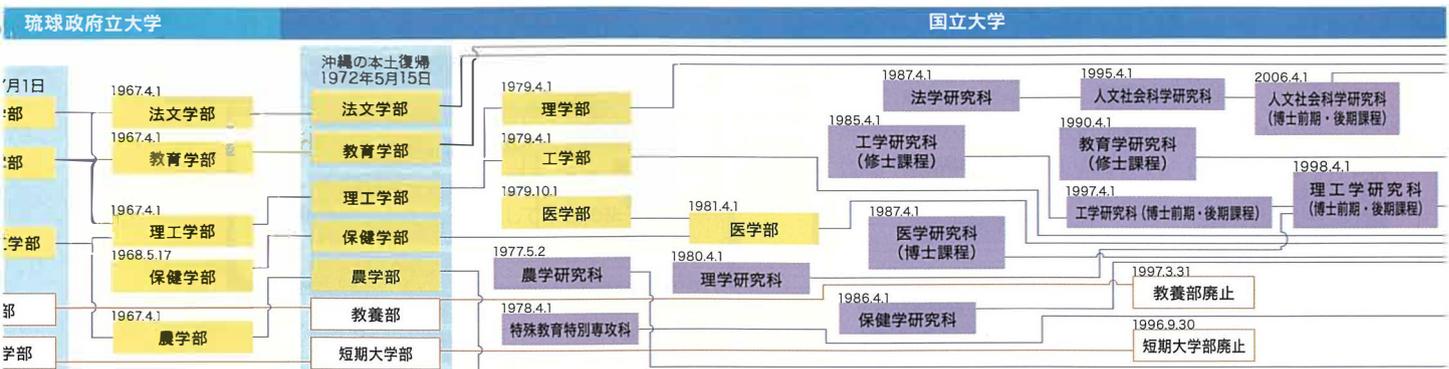
民間アパートに開設した
移転整備促進室千原事務所
1975年



千原キャンパス移転工事(本部管理棟)
1981年4月27日



琉球大学千原キャンパス 2001年3月30日



国立大学法人へ

2004年(平成16年)

4月1日、国立大学から国立大学法人となった。

2005年(平成17年)

4月1日、国立大学に先駆け、法文学部に観光科学科を設置。(2008年に観光産業科学部へ)

2007年(平成19年)

5月22日、第57回開学記念日にて、琉球大学憲章を同日制定。

2009年(平成21年)

3月23日、琉球大学ロゴマークを制定。



これまでの10年

2011年(平成23年)

2月22日、男女共同参画宣言を発表。

2012年(平成24年)

4月、21世紀型市民を養成するために新カリキュラム:URGCC (University of the Ryukyus Global Citizen Curriculum) を導入。

2013年(平成25年)

4月1日、岩政輝男 第15代学長から、大城肇 第16代学長へ。

2015年(平成27年)

- 1月1日、大学運営推進組織として研究推進機構を設置。
- 3月25日、ダイバーシティ推進宣言を発表。
- 4月1日、上原地区キャンパス移転推進室、ダイバーシティ推進本部、ジェンダー協働推進室を設置。
- 7月1日、既存の学内共同教育研究施設を統合し、グローバル教育支援機構を設置。

2016年(平成28年)

- 4月1日、既存の学内教育研究施設を統合し、COC事業及びCOC+事業を担う中核的な組織として地域連携推進機構を設立。
- 7月1日、広報戦略本部を設置。

2017年(平成29年)

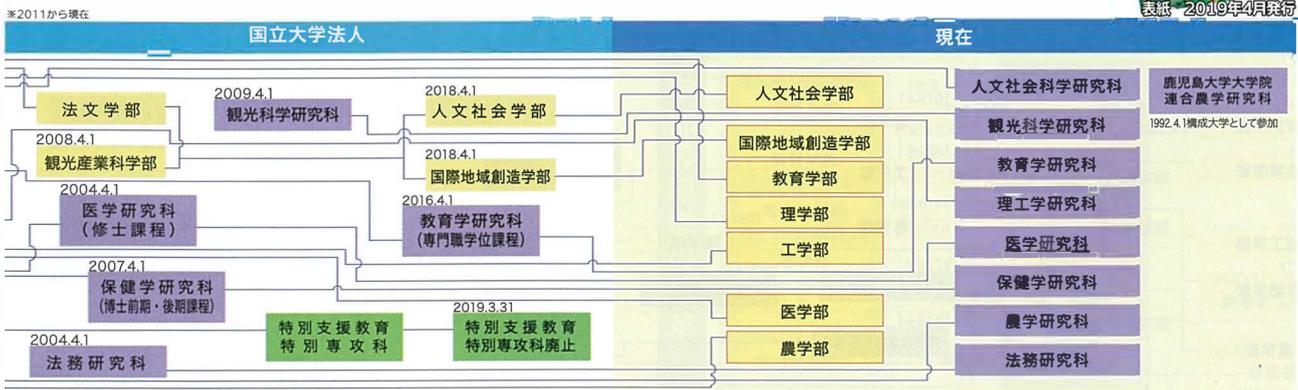
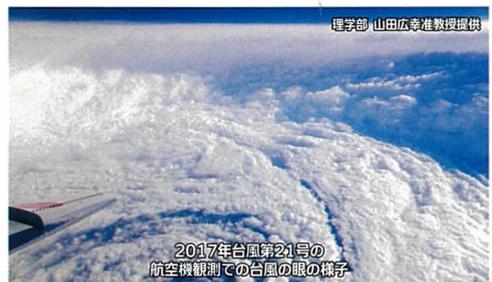
4月1日、国際戦略本部を設置。

2018年(平成30年)

11月28日、ユニバーシティ・アイデンティティ (UI) を視覚的に表現したエンブレム、タイプフェイス、琉大マーク、コミュニケーションマーク、タグライン及びスクールカラーを制定 (琉球大学ロゴマークを廃止)。

2019年(平成31年)

- 4月1日、大城肇 第16代学長から西田睦第17代学長へ。
- 6月、SDGsの取り組みについて学長メッセージを発信。
- 10月31日に首里城が焼失したことを受け、12月に首里城再興緊急学術シンポジウムの開催及び首里城再興学術ネットワーク (準備室) を設立。



70th
ウツクシク

開学70周年記念事業

Island wisdom, for the world, for the future.

琉球大学は2020年(令和2年)に開学70周年を迎えます。この記念すべき節目にあたり、本学の発展を期する事業として、また地域社会の発展に貢献しうる事業として「琉球大学開学70周年記念事業」を実施いたします。この事業を通して、本学は地域社会や国際社会で活躍できる人材の育成に取り組むとともに、豊かな社会を皆さまと共創して参ります。

何卒、趣旨にご賛同くださり、格別のご支援並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大学発ベンチャーの支援 ～未来の起業家を育てる～

2021年度より
実施予定!

学生の創造的なアイデアや本学教員の研究成果を大学発ベンチャーとして事業化するための支援を行います。沖縄県の未来を担う起業家を育て、新しい産業を産み出すとともに新規雇用の創出に貢献します。



地域連携の企画展

2020年秋頃
開催予定!

企業の皆さまと琉球大学との新たな連携のチャンスの場を提供し、沖縄県の産業振興並びに地域振興を図るため、「地域連携企画展」を開催し、本学教員の研究シーズを紹介します。



国際交流シンポジウムの開催 ～琉球大学からアジア・太平洋地域へ～

2020年
12月12日(土)
開催予定

島嶼地域の共通課題について研究者・高校生・大学生等が共に議論し、「Island wisdom」による解決に向けて取り組むために国際シンポジウムを開催します。



奨学・教育研究・国際交流 奨励事業の拡充 ～社会に貢献できる人材の育成～

2021年度より
実施予定!

公益財団法人琉球大学後援財団によるこれまでの琉球大学への支援事業(奨学事業、教育研究・国際交流奨励事業)を拡充し、学生の教育研究環境を充実させることで地域社会や国際社会で活躍できる人材を育てます。



記念式典及び 記念誌の発行

2020年秋頃
開催予定!

琉球大学の社会における役割を再確認するとともに、これからの琉球大学のあるべき姿についてより多くの方々と語り合う機会として記念式典を執り行います。また、主として開学60周年以降の大学の発展の歩みを記念誌としてまとめます。

その他の記念事業

キャンパス環境の整備 ～自然あふれる憩いの場の遊歩道～

※開学70周年記念事業の詳細につきましては、本学公式ホームページ
http://www.u-ryukyu.ac.jp/70th_anniversarv/
に随時掲載し、お知らせいたします。



首里城再興にむけて琉球大学ができること 緊急学術シンポジウムを開催



今回登壇された先生方



令和元年10月31日未明に起こった首里城火災を受け、年の瀬も近づいた12月22日(日) 沖縄県立博物館・美術館の博物館講座室にて琉大未来共創フォーラム「首里城再興緊急学術シンポジウム—学術にできることは何か」を開催しました。急な呼びかけだったにも関わらず、早い段階で定員の100名に達したことから、首里城火災に対する関心の高さが非常に感じられるものとなりました。当日は報道関係者も多く集まっていました。

琉球大学は、戦災に遭った首里城の跡地に、米国統治下時代の1950年に創設されました。その後、琉球大学が現在の西原町に移転したことにより、1992年に首里城正殿が復元されています。今回のシンポジウムは、学術的な蓄積と最先端の科学技術、そして国内外に広がる研究者のネットワークを駆使し、その首里城の再興の契機とすることを目的としました。

シンポジウムは3部構成。西田学長の挨拶から始まり、第一部は前回の首里城復元と世界遺産登録に関わった2名の登壇者による基調講演「首里城とは」。第二部は、首里城再興に向けて文化・観光・歴史・建築をそれぞれ専門とする4名のパネリストによる講演「首里城と沖縄」。そして第三部は登壇者全員による、総合討論「首里城再興に向けて」をおこないました。



第一部 基調講演「首里城とは」 過去の復元、そして世界遺産登録について

第一部の基調講演で、最初に登壇されたのは琉球大学名誉教授の西村貞雄先生。テーマは「首里城正殿 その特色と独自性」について。1988年から92年にかけて首里城正殿設計委員会に委員として

参加し、彫刻復元制作や下絵制作をされた西村先生は、中国の紫禁城の比較から首里城の独自性について解説。龍や宝珠と言った中国的なもの、阿吪や唐破風など日本的なものを取り入れつつ、未広がり階段や龍が棟を噛んでいる様に見立てる龍頭棟飾りなど、琉球独自で築き上げた美意識についてお話をいただきました。また今回の火災で焼け残った大龍柱についても言及。本土復帰20周年記念で首里城正殿を復元する際の重要な資料となった「百浦添御殿普請付御絵図材木寸法記」という1768年の工事報告書も絡めてお話をいただきました。

2人目の基調講演は前沖縄考古学会会長の當間嗣一先生。テーマは「琉球王国のグスク、世界遺産登録から20周年」。沖縄県教育庁文化課勤務時より県内の文化財に深く関わり、首里城を含めたグスク研究を専門とされている當間先生は、前回首里城正殿を復元した際に初期段階の発掘調査と世界遺産登録の際には統括責任者という形で関わった経験から、遺跡の復元をする際には、その基礎となる慎重で綿密な調査研究が重要だということをお話いただきました。さらに世界遺産登録について、世界遺産であり続けるために世界遺産登録の審査、モニタリング活動を行う ICOMOS の評価基準を踏まえた上で首里城を再建するべきというメッセージを頂きました。

第二部 パネリスト講演「首里城と沖縄」 4つの視点から首里城再興を考える

第二部講演、1人目のパネリストは、東京大学名誉教授 藤井恵介先生。今回のシンポジウムで唯一県外からの参加となりました。文化庁文化審議会文化財行政に関わってきた藤井先生は、ICOMOSを含めた全世界の文化財に対する考え方を紹介。最後に今後の復元



に際し「今回消失した建築物とほぼ同様のものを建て、防火設備を徹底する」、これが首里城再建についての文化庁の基本的な考え方である、と指摘されました。

2人目のパネリストは、沖縄県立博物館・美術館館長の田名真之先生。琉球の歴史の中での首里城の位置づけについてご講演いただきました。戦前の首里城は沖縄神社の拝殿になっていたため内部構造が変わり、朱塗りから黒塗りになっていたこと、平成の復元では、琉球王国として繁栄していた頃の首里城を復元したこと、またこの復元により首里城が琉球を象徴する「形」として我々のアイデンティティになっていたことなどのお話をされました。また、御差床の上にあった「中山世土」の扁額を復元するために、沖縄の書家の方に勉強してもらい、康熙帝になったつもり書いてもらったというエピソードには驚きと感心の声が上がっていました。

3人目のパネリストは、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー会長 下地芳郎先生。冒頭には、このシンポジウムを学生達に聞かせたかったとのコメントもありました。多角的な視点から沖縄の未来を考え、産学連携分野の最前線で活躍される下地先生からは、沖縄観光の歴史の中での首里城の位置づけについて、また首里城火災を受けて沖縄観光コンベンションビューローが取り組んでいることについてお話いただきました。首里城の入場者数の推移や、首里城火災を受けた世界の人々によるインターネット上での反応等などのデータを元にした分析から、沖縄からの積極的な情報発信の重要性などについてなど、他の先生方とは異なる「観光」という視点からのお話はとても聞きやすく、会場から質問も飛び交いました。

4人目のパネリストは、琉球大学工学部 堤純一郎教授。テーマは「文化財としての建築を、火災から守るための建築設備」について。文化財としての建築を火災から守るということで、エンジニアリングあるいはテクノロジーの面からお話いただきました。今後の課題として監視や消火設備の強化、ICTの導入やスプリンクラーなどの設置について、また、使う木材の不燃化、難燃化という技術の導入について、さらには基本的でとても大事な定期訓練についてなど、次に再建される首里城を後世に残すための前向きな提案に参加者は熱心に耳を傾けていました。

第三部 総合討論「首里城復興にむけて」

総合討論では、ファシリテーターを務める琉球大学の木暮一啓理事・副学長（企画・研究担当）が講演を聞きながら書き出したキーワードを映し出し、今回講演された6名の先生方への質問形式でスタートしました。「南殿・北殿を木造で復元することは可能なのか?」「木造で再建する場合、木材はどこから持ってくるのか?」「難燃処理など現代的な技術を実施することは、世界遺産として問題はないのか?」など様々な質問が投げかけられ、それぞれ専門とする先生方が回答しました。その中で、特に盛り上がりを見せたのが、當間先生による大龍柱の向きについての考察。博物館に保管されている大龍柱の考古資料（約300年前に製作）の解析により、大龍柱は現在の向き合形ではなく、正面を向いていたとする方が理にかなうという説明で会場を驚かせ、資料を保存することの重要性を再認識することとなりました。また、過去に被災や震災などで評定所文書など大切な資料を失ったことから、複製して複数の場所に分散させることが必要であると、藤井先生をはじめ多くの先生方が強く訴えていました。

「今回の火災は不幸な出来事でしたが、今まで出来なかった様な歴史的な発掘もあるでしょうし、新しい技術を導入するということもあると思います。その意味では不幸をチャンスに変えて、より一層の飛躍を目指して欲しい。最新の技術で、新しい技術を導入しながら伝統を守る、継承を考えてほしいと考えております」と堤純一郎教授がまとめ、シンポジウムは閉幕しました。



首里城再興のため、学術面から最大限の貢献をするということが大学のやるべきこと。そのため、学内外のネットワークを構築してくための第一歩として本シンポジウムを開催しました。ここから、国や沖縄県、那覇市、そして多くのみなさまと共に、琉球王国の歴史を多面的に捉えつつ、若い世代につなげていく教育も含めた長期的な活動を始めます。

業 介 紹

自治体や企業の想いを受け止め、 学生の学びの機会をつなげる 地域の人たちと学生の間立つ インタープリター

小島 肇

Kojima Hajime

地域連携推進機構 特命准教授
研究分野：地域政策、交通政策、観光政策、
地域連携、地方創生



文部科学省による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」において、琉球大学では新たな地域社会を創造する「未来叶い（ミライカナイ）」プロジェクトを展開し、全学をあげて地域志向教育に力を入れています。今回紹介するのは、このプロジェクトで活躍されている実務家教員の小島肇先生です。実務家教員とは、多くの大学教員が大学を卒業してそのまま大学に残り研究を続けながら学生への指導にあたる中、一度社会に出て身につけた専門的な知識や経験を授業を通して学生に還元する教員のこと。小島先生は15年の行政経験を活かし、地方自治体や地域の人と学生をつなぐインタープリターの役割を担っています。

小島先生は前職で、国土交通省の業務を中心とした沖縄振興を担当。さらに内閣府沖縄総合事務局、沖縄美ら島財団などで培った専門的な知識や人脈、経験を活かした授業は学生の人気が高く、2019年には「地域創生のための商品開発入門」でプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞されました。

座学であっても、学生を受け身にさせない

小島先生の授業の特色は、社会の第一線で働く方々の生の声が聞けること。先日行われた沖縄の地域医療の授業では、まさに今の沖縄における医療現場で第一線に立っている先生方を招き、オムニバス形式で講義を行いました。また、座学の授業ではアクティブラーニングを積極的に取り入れ、必ずグループによる討論やそれぞれの考えを共有する時間を設けているところも、小島先生の授業の特色です。

現場を見る、話を聞く。 そのためにICTも活用する

小島先生の担当する「地域プロジェクト実践」では、春や夏の集中講義で離島などに滞在してフィールドワークを行います。昨年の夏は久米島に行き、海洋深層水や観光、農業、人口増加（移住・定住）など地域が取り組んでいる課題について調査しました。離島での現地調査は時間が限られているため、事前にICTを利用してリモートで島の人から授業をしてもらい、学生がそれぞれ課題を見つけます。その上で島へ渡り、現地でヒヤリングや調査を行い、最後には島の人に発表して還元します。



久米島でのフィールドワーク風景

また、昨年のはうるま市の協力を得て「うるマルシェ」という、農業の6次産業拠点化施設を調査しました。市役所の方から政策的な目的を聞き、実際にそのような利用がされているのか、目的に対して足りないものは何か、学生が現場を見て確認調査を行いました。今は調査方法も多様化していて、アンケートを取るのもiPadを使い対面式でGoogleフォームに直接に入力することで、その場で集計も可能に。こうして足とICTを使って集めたデータを分析をして発表を行いました。

共通教育だから多くの学生に届く

小島先生の授業は、全て共通教育科目でどの学部の学生も受講することができます。そのため取り上げるテ

マも沖縄に関連して「観光」「産業振興」「航空」「首里城」「デジタルマーケティング」と多岐に渡ります。文系学部の学生が、医学部の学生と肩を並べて健康医療について学べる機会はとても貴重です。今回プロフェッサー・オブ・ザ・イヤーを受賞した「地域創生のための商品開発入門」は、地域の魅力ある資源を商品として売り出すことについて学びますが、「地域への理解に役立つ」と先輩から後輩に伝わり、医学部生も多く受講しています。

沖縄の資源をどう活用するか 価値をうまく伝える

本部町のアセロラ、久米島の天然もずくや赤鶏、紅型やハブの革を使った工芸品など、作り手は、良いものを作るという商品に対する強い想いはあるけれど、それをどう沖縄振興につなげて行くかは分かっていないことがあります。小島先生はそんな彼らの想いを受け取り、地域での役割を学生に伝えると共に事業者にも再認識してもらう。それはまさに行政職員時代からやってきたことでした。また、ここにもICTを活用。デジタルマーケティングによる手法を学生に学んでもらい、実際に学生が制作したSNSを使ったネット広告で首里石鹸の売上が前年度の150%増を達成しました。

小島先生からのメッセージ

「沖縄には魅力も課題も溢れています。しかし『沖縄が好き』と言いながら、沖縄の事をよく知らない学生は多くいます。だから大学での学びを通して根柢を持って沖縄の魅力を発信出来るようになって欲しい。これまでには地方自治体の他、GoogleやCAアドバンス、沖縄銀行、JTA、美ら島財団など様々な企業とも連携して多様な講座を行っていました。

地域や企業の想いを受け止め、学生の学びの機会に繋げて人材を育成する。それが僕の役目です」

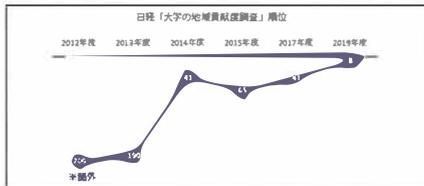


寄附講義における空港見学の様子
(JTA提供)

UR Topics

[10/21]

「大学の地域貢献度に関する全国調査2019」で
8位！



[10/31]

首里城の火災につきまして

沖縄の象徴的存在のひとつであった首里城のこの度の火災は、沖縄県民はもとより、戦火によって壊滅した首里城跡地に開学した琉球大学（現在のキャンパスへ移転後、首里城が復元）にとっても、たいへん残念であり心を痛めております。

1日も早く再建されることを希望するとともに、本学としても可能な限りそれに協力させていただきたいと考えております。（学長：西田 睦）



首里城火災
復旧支援金を
沖縄県へ寄附



[11/15]

JSTの新規
「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」
に採択されました



[11/15]

琉球大学
プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー
表彰式を開催

【受賞者】

服部洋一（教育学部教授）、西本裕輝（グローバル教育支援機構教授）、久保慶明（人文社会学部准教授）、日熊隆則（教育学部准教授）、張本文昭（非常勤講師）、古川卓（グローバル教育支援機構教授）、小島肇（地域連携推進機構特准教授）、池村博隆（非常勤講師）、長山格（工学部准教授）、張維眞（非常勤講師）、土岐知弘（理学部准教授）、鈴鹿敏雅（理学部准教授）、羣原恭子（グローバル教育支援機構教授）

以上 13名



[11/24]

人文社会学部 2年次の宮里竜志さんが
論文賞「青雲塾・中曽根康弘賞優秀賞」を受賞



鉄板焼ステーキレストラン  heki 事業部

- ・東町本店 ・国際通り松尾店
- ・東京銀座三越店 ・大阪うめきた店

しゃぶしゃぶ  kou 事業部

- ・東町本店 ・おもろまち店

株式会社  heki

本社：沖縄県那覇市東町 19-25
TEL：098-863-1533
<https://www.heki.co.jp/company/>

「大学の世界展開力強化事業」
ミクロネシア連邦短期研修及びハワイ
海外文化研修を実施しました



[12/7]

日本最大級の環境総合展示会「エコプロ 2019」に
琉球大学とエコロジカル・キャンパス
学生委員会が出展しました



[12/14]

全国スペイン語弁論大会で
本学の学生が優勝しました

写真中央・優勝盾と賞状を前にするクムザック・アスティン・拓哉さん
(国際地域創造学部国際言語文化プログラムヨーロッパ言語系スペイン言語文化所属)



[12/23]

令和元年度学生と学長との
懇談会を開催



Since 1964

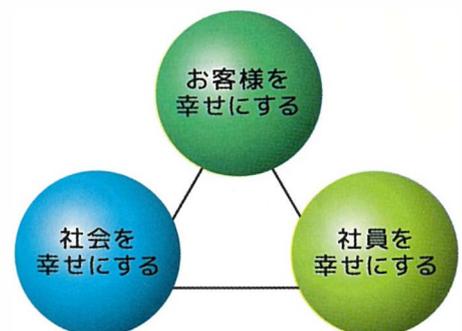


中央医療器
CHUO IRYOKI

★ 琉球ゴールデンキングス オフィシャルパートナー ★

パパは ゼロゼロセブン
☎098-888-0070

〒901-1114 南風原町字神里409番地の5
<https://www.chuoiryoki.co.jp>



大学基金たより

琉球大学のグローバル人材育成プロジェクト、学生サポーター組織「グローバル・commons コンシェルジュ(GCC)」の活動について、担当教員の當間千夏先生(グローバル教育支援機構開発室)、コンシェルジュの照喜名朝尊さん(ちよーそん：国際言語文化学科 英語文化専修3年)にお話を伺います。



(左から當間先生、ちよーそんさん)

當 問：まず、私の仕事の一つに「大学の国際交流や留学、語学活動を活性化させるための場所として、図書館グローバル・commons津梁スペースの整備運営」がありました。ですが場所を作っても、人がいないと動かない。そこで、県内外の学生の主体的学習空間としてcommonsを実施している他大学を視察し、学生を主体とした英語学習・留学サポートを開始することにしました。試験的に2018年12月からGCCはスタートし、サポート学生自身の経験を活かし楽しみながら、自発的に語学や留学、国際交流について発信しつつ成長することのできる組織として、現在は9名の学生がコンシェルジュとして活動しています。

ちよーそん：琉大では、協定校への交換留学のほか、加盟しているISEP (International Student Exchange Programs) やUMAP (アジア太平洋大学交流機構) を利用した留学もでき、各コンシェルジュがお助け相談もしています。特に今、ISEPが熱い！

當 問：以前までは、交換留学協定校は海外90大学ほどでしたが、2018年に琉大もISEPに加盟し、一気に全世界54カ国300大学以上に留学先が広がりました！ アメリカの大学が多い制度ですが、中南米、欧州に加えて、なんとアフリカにまで留学できちゃうんです！

ちよーそん：実は、自分もISEPでアメリカ留学に申請中です。高校生の頃は難しかったアメリカ留学に挑戦したくて、県内の大学で留学支援制度が充実していた琉大に頑張って入学しました。QUEST基金の留学準備英語能力試験の助成がすごいです。TOEFLなどでハイスコアを取るほど留学先の選択肢は増えますが、学生にとっては受験料約2万6千円もけっこうきついです。自分も2回目まで受けられるこの助成制度のおかげで点数アップして留学準備ができました。

留学先でやってみたいことはありますか？

ちよーそん：自分はただ単に英語が本当に好きなんです。もっと高いレベルの英語を目指してその先に、フィットネスマネジメントなども学びたい。オレゴンに親戚がいるおかげで、以前から向こうの大学を肌で感じる機会があり、ブランド性や学生が持つ大学への誇りが違うと思っていました。就職するためだけに行く大学ではない、スクールソーシャルライフも体験したいです。

琉大基金も米国の大学基金 (endowment) をモデルとして3年前からスタートしており、国による大学文化の違いをよく聞きます。

ちよーそん：オレゴンはスポーツブランドのナイキ本社もあって、地域企業として大学に施設整備などですごく寄附をしています。大規模スタジアムでの他大学リーグ戦のアスレチックカルチャー、出身大学のカレッジリングとか、もう本当に、学生も地域も大学があることが誇りなんだと思います。自分は、ずっと前から琉大生にもっと自分の大学を誇りに持ってもらいたい、琉大のブランドカアップで何かしたいと友人とよく話しています。これも、10年20年もつとかかるかもしれませんが、やりたいことの一つです。

頼もしいですね。GCCのその他の活動をお聞かせください。

當 問：相談のカウンセリングだけでは受け身になりがちなので、何を聞けばいいかわからないという人でも、まずは参加できる運営メンバーの得意なことを生かしたワークショップを企画しています。GCCが常に大切にしているのは、「学生が学生のために、主体的に」です。

ちょーそん: ちなみに、千夏先生も同じ学部出身の先輩です。まだ特定の知り合いが多いGCCの活動ですが、大学のブランド力を上げるにしても、いろいろな人が関わるムーブメントで、みんなでやらないとやっぱり意味がないと思っています。みんなで琉大を変えていくって感じで、バン！っていききたい。

当 問: ワークショップでは、ちょーそんのスピーキング力を上げる「最強イングリッシュキャンプ」や、国際恋愛経験のある学生企画など盛りだくさんです。これからもGCCではない学生もいっしょに、英語をしゃべろう！英語以外の語学もやろう！と活発に企画ができる、多様性・協働性を学べる「場作り」をしていきたいと思っています。

大学基金へ寄附をいただいた卒業生、先輩方の想いを繋げる素晴らしい活動ですね。支援をとおして、寄附とは違う形でも、主体的に誰かのために社会へ貢献していくことを、学生自身が考えるきっかけになればと思います。

当 問: それで将来、ちょーそん先生はお金持ちになって、琉大に自分の名前の付いた建物も寄附するんだよね！

琉大が元気になれば、沖縄地域も社会もより元気になります。ちょーそん先生には、アメリカ大学のカルチャーを経験してもらい、ぜひ琉大基金のアドバイザーもお願いしたいですね。

ちょーそん: 自分は先生じゃないです(笑)。でも、自分の人生カッコイイことはしたいんで、やりたいことならなんでも挑戦していきます！

(後日、ISEPでのアメリカ留学が決定したと連絡をいただきました。ちょーそんさん、おめでとうございます。)

インタビューー: 志茂 和音 (基金室 基金係)

琉球大学基金

一般基金及び用途に応じた5つの特定基金から寄附先をお選びいただけます。

一般基金	教育研究等大学運営全般への支援
修学支援基金	経済的に修学が困難な学生への支援・給付型奨学金
QUEST基金	学生の教育研究活動事業(国際交流等)の支援
結転生(ゆいまー)基金	シングルマザー雇用による経済的自立支援/子どもの就学援助
うない女性研究者・リーダー育成基金	地域における男女共同参画推進及び次代を担う女性人材の育成支援など
沖縄健康医療推進基金	琉大病院、上原地区キャンパスの移転に伴う、より快適で安全なキャンパスの整備事業など

寄附支援の方法

オンラインによるご寄附
琉球大学基金WEBサイトから、クレジットカード決済がご利用いただけます。定期的(毎月、年2回、毎年)に定額をご支援いただける継続寄附も承っております。

振込によるご寄附

所定の払込取扱票(振込用紙)がご利用いただけます。お持ちでない場合は、基金室までご連絡ください。

税制上の優遇措置

「寄附金控除」の対象となり、個人からは「所得控除」、法人からは「全額損金算入」が適用になります。なお、修学支援基金への個人からのご寄附のみ、従来の「所得控除」に加えて「税額控除」も適用になります。確定申告の際に、控除額の有利な方をお選び下さい。

※その他、詳細については、琉大基金WEBサイトをご覧ください。基金室までお問い合わせください。

お問い合わせ先

琉球大学基金室

☎098-895-9013

✉ kikin@acs.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学基金



グローバル
コモンズ
コンシェルジュ
やってます!

SNSはこちら

[Instagram] gcc_ryudai
[Twitter] @GCC_U_Ryukyus

附属図書館二階 グローバル・コモンズ津梁(芝生の所)
✉ globalcommons.concierge@gmail.com

芳名簿

琉球大学基金へ多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。本号では、令和元年9月から令和2年2月までにご寄附いただいた際に掲載の同意をいただいた皆様のご芳名(五十音順・敬称略)を掲載させていただきます。

荒川 雅志	翁長 佑衣	篠原 里美	高山 和則	新田 早苗	前原 武子
有銘 工	桐島 孝	下地 敏洋	田里 友治	沼崎 聖司	宮尾 徹
伊佐 淳	金城 光彦	城間 弘充	土井 歩	萩野 敦子	宮平 進
石川 洋次郎	國吉 徹也	菅井 尚子	中村 真也	鉢嶺 元安	本村 真
大濱 昭美	國吉 幸男	鈴木 朝希	中村 拓郎	林田 俊樹	吉本 靖
大屋 祐輔	小池 真由美	平良 美奈	中村 勝	比嘉 広樹	
落合 秀夫	小林 勉	高田 朝子	楠城 治和	前島 修	

What legacy will you create?

どんなプロフェッショナルに
なりますか？
今、あなたのキャリアが広がる
詳細については: eytax.jp/careers

© 2019 Ernst & Young Tax Co. All Rights Reserved. ED: 0617, Japan Tax SCORE 20190617

■ ■ ■
The better the question. The better the answer.
The better the world works.

EY

Building a better
working world